

「総合単元」を楽しむ



富山大学教授

安藤 あんどう

修平 しゅうへい

一 どこが違う「総合単元」

「総合単元」を理解するには、平成十四年度版の単元構成を把握することが早道です。

十四年度版の単元構成は、「基本単元」「複合単元」「総合単元」の三つです。基本単元はいわゆるプロパー単元、例えば、四年下の「一つの花」のように「読むこと」とそれだけを学習の対象にします。それに比べて、「読むこと」と「書くこと」を複合させた単元がありますね。例えば、三年上「集まれ、世界のお話」(三年とつげ、本のおびを作ろう)がそうです。「読むこと」と「書くこと」の領域が「複合」されています。

それに対して、「総合単元」は「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の言語活動が有機的・総合的に展開するのが「総合単元」のポイントなのです。従来の指導では、この二つの教材を読んで内容を理解し、どちらかの文章について感想を書いて終わり、というのが普通でした。「読み」が「読み」で閉じていたわけです。読み取ったものは、筆者が伝えようとしていることばかりではありません。「疑問」や「もっと調べてみたいこと」もあるはずですね。ここを大切にしますので、すから、内容理解をおろそかにはできません。いやこちらを軽く扱ってしまったのでは、「疑問」や「もっと調べてみたいこと」が不十分になってしまいます。

伝え合いのために

さて、「疑問」や「もっと調べてみたいこと」も自分のことですから「自分で」調べて「自分で」解決すればそれでよい、というのわからないではありません。しかし、これも「読むこと」と同じことですが、他の人に伝えて初めて、不十分なところも知り得て補うことも可能になりますし、他の友達の疑問や調べたことも理解できます。教科書に「『伝え合い』を考える会を開こう」という学習活動が置かれているのもこのためです。

「疑問」や「もっと調べてみたいこと」を解決し「伝

われるように設定した単元です。

二 どこが違う「総合単元」

疑問や課題を見いだす

子どもたちが教材に触発されて、疑問や課題を見いだすことはどのような場合でも同じでしょうが、この「総合単元」では「ここからが「本番」です。

「これまでのところを、四年下の「伝えよう、わたしたちの心」で見えてみましょう。

「ここには」「手と心で読む」と「手話との出会い」の二つの教材が並んでいます。前者は点字についての理解を中心としながら、目の不自由な人にとって点字がどんなに大切であるかが記されています。また後者は、題名の示すとおり、筆者が「手話」と出会い、次第に学んでいく体験を通して得たものを紹介しています。そして「手話」との出会いが大切な人との出会いでもあったことを結びで記しています。

さて、この二つの文章を読んで、子どもたちは、どのような感想をもったでしょうか。点字の大切さに反応した子ども、点字の仕組みに興味をもった子、手話をもっと詳しく知りたいと思った子もいるでしょう。子どもたちが教材にどのように触発されてくるでしょうか、それ

え合「うためにさまざまな活動が必要になり、必然的に「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」が総合的に用いられることになるのです。

三 どこも違う「総合単元」

『総合単元』は時間がかかって困る」と考えてはいませんか。確かにいえることですが、十四年度版はこのことも十分考慮し、二学期に十分な時間の確保を考えました。もう一つ、「総合単元」は準備がたいへんです。従って、二学期末にこの「総合単元」の準備を済ませておくことをお勧めします。また、「学習活動」は子どもたちへの説明にも時間がかかります。子ども自身が「学習活動」の中身を理解し、見通しがもてるようにとの願いから、教科書では「学習活動」の説明をできる限り丁寧にしました。

さて、ごなたを招待して発表会を開きましょうか。調べるときにお世話になった方々にしましょうか。

